

「戦争のはかなさ」

港北小学校 6年梅組 齊 藤 帆 南

私が土崎空襲の学習で一番心に残ったことは、日本で最後の空襲だったということです。あと一日でも戦争が早く終わっていれば、土崎空襲で亡くなった方はいなかったと知り、本当にむなしい気持ちになりました。もう少し早く戦争が終わっていれば助かった命があったと思うと、とても悲しくなります。

実際に爆弾の破片を触ることもできました。とても硬くて重く、そのような破片が身体に刺さった人もいたと聞き、戦争の恐ろしさを強く感じました。また、私たちが普段遊んでいる光沼公園も空襲の被害を受けていたことを知り、被害は想像以上に大きかったのだと思いました。さらに、空襲を体験した方のお話を直接聞き、自分で考えることの大切さを改めて感じました。

私が平和について考えたことは、二度と戦争を起こさないこと、そして日頃から小さな争いをしないことです。小さな争いが大きな問題へと発展し、多くの人を巻き込むこともあります。だからこそ、日本でも世界でも、そして家族や友達との間でも、お互いを思いやり、争わないことを心がけたいです。

戦争では多くの命が奪われます。本当は人を傷つけない人でも、国の命令で戦場へ行かなければならないことがあります。命は奪うものでも傷つけ合うものでもありません。私は心の底から、戦争は絶対にしてはいけないものだと思います。

これからも土崎空襲について学んだことを多くの人に伝え、戦争の恐ろしさと平和の大切さを次の世代へ語り継いでいきたいです。そして、一人の人として小さな争いも大切に考え、平和な毎日を守れるよう行動していきたいです。